

無所属 西東京市議会議員

森てるおの なんでもリポート 第37号



2007年3月発行（隔月発行） 定期購読料：年間1,000円（送料含む）
編集：森てるお事務所 発行：森てるおと市民の目 西東京市中町2-8-13-102
電話：042-439-7023 FAX：042-439-7024

かわだ りゅうへい

川田龍平を国会へ！ 推薦します。応援してください！

前回、前々回と私の選挙応援団に名前を連ねて下さった川田龍平さんが7月の参議院議員選挙に無所属で立候補することを表明されました。

皆さんには国会の中で無所属が存在感を持ちうるのかとの疑問をお持ちになる向きもあるかと思いますが、しかし、本来、二院制のもとでの参議院は政党に系列化されてはいけない場所です。無所属こそが望ましい姿です。

現状は衆議院のカーボンコピーで、無所属に存在価値はないとお考えになるかもしれません。たしかに採決に関わることに限れば紙くずみたいなものでしかありません。ところが、国会議員には「国政調査権」という強力な権限があります。無所属ならば、市民の利益になる情報を引き出してくることができます。政党によって脚色されていない「生の情報」を市民が手にすることができるのです。また、市民は情報を独り占めする必要がありません。インターネットその他の手段で、情報を公開することができます。「生の情報」は最終的に国会を市民のものにするために欠かせないものです。

無所属だからできる、無所属にしかできない、そんな仕事を川田龍平にさせたい、そう考えています。応援とご協力をお願いします。

ごみ有料化は何のために？

ごみ収集を有料化するという質疑の中で、「可燃、不燃、プラスチックの収集手数料が同一では分別へのインセンティブ（動機付け）が働かないのではないか」という主張をしました。多分これを意識したのでしょう「市民をお金で動かそうというのは気に食わない」という意見が共産党の議員から出てきました。与党、共産党の了承のもとに提案されている有料化そのものが「お金を取るから、ごみを出すのは少なくしたほうがいいですよ」と、市民をお金で動かそうとするものにほかなりません。理由いかんに関わらず、市民負担を強化することには強硬に反対し、それによって支持を集めようとしてきた共産党らしからぬ発言です。立場が変われば言うことが変わる、二重基準（ダブルスタンダード）ですね。

私が容器包装リサイクル法による処理を求める理由は、分別収集の徹底によりプラスチックを燃やさないようにするためと、生ごみも純度を高めて、燃やさなくてもいいようにするためです。プラスチックを焼却することによってダイオキシンや重金属が環境に放出されます。当然、処理施設周辺の住民はその影響を免れません。影響の大小に関わらず、私たちのごみで健康を害する人たちが出たら困ります。また、燃やすと有害物質を含んだ灰が残ります。今これをエコセメントにするプラントが稼動していますが、あまり感心できる方法とは思えません。苦し紛れの手段です。

また、生ごみはほとんど100%のリサイクルが可能です。そのためにはできるだけ不純物を取り除く必要があります。分別の徹底はリサイクルのための手段です。

与党質問、野党質問

議員の質問は議会の質問というのが私の考えです。行政の不明な部分を訊ね、チェックするのが議員の役割です。だから、質問の仕方に違いはあっても役割の基本は変わらないものと考えています。質問して行政が答弁をしたら「なんで?」「根拠は?」という具合に質問が進んでいき、納得できるまで問いただして当然だと思っています。

ところが、あるんですね～与党質問っていうものが。行政から説明されたらすぐに「わかりました」と引き下がるんです。行政の考えを議会の場で言わせることだけを目的にしているとしか思えません。坂口市長の誕生で「与野党逆転」があったからそれがよく見えてきました。立場が変われば質問の仕方も変わるのです。

ほんとは賛成なのに、反対のような質問をしてみる野党は本質までは追及しません。与党はもっとたいへんです。これまで反対してきた類のものに、賛成の論陣を張らなければなりません。論理が崩れれば提案は通らない、論理が通ればこれまで反対してきたものが可決される、自己矛盾ですね。

議員のくせに行政に擦り寄るからそうなるのであって、当然の帰結です。責任は自分で取ってもらいましょう。



お詫びならびに編集後記

本来の発行予定をはるかに過ぎてしまい、大変に失礼をいたしました。拡声器でのご報告の通り、西東京市では総与党という現象も現れてきました。数こそ力と考える政党政治の帰結です。

「地方政治に政党はいらない」と地方議会の刷新を目指している森てるおとしては経験も見識も未熟な若者議員が政党の名前(看板)だけで続々と誕生していくのは苦々しい限りです。現状で、議会という場所は若者をいびつにさせることはあっても、育てる場所にはなっていません。「老獪な大人たち(先輩議員や職員)」によって、議会の常識を世間の常識と思い違いをした「議会人間」にされていきます。この人たちが政党の看板を背負って議員であり続けることを考えてみてください。私は市民にとっても本人にとっても不幸なことだと思います。少なくとも、政党や会派に所属せずに、自分のそれまでに培ってきた知識、見識を総動員して、自分の責任で物事に対処することができないのならば議員になるべきではないと考えます。

◎森てるおの活動記録(2007年1~2月)

※主なものを掲載しています。

- | | | | |
|------|----------------|------|------------------|
| 1月4日 | 市役所挨拶回り | 2月2日 | 臨時議会開会(～9日) |
| 6日 | スタッフ会議 | 3日 | スタッフ会議 |
| 8日 | 成人式 | 9日 | 駅頭宣伝活動(～16日) |
| 9日 | 駅頭宣伝活動(～16日) | | 議員特権ワーストコンテスト |
| | 議員特権廃止日テレ取材対応 | 13日 | 表彰制度廃止申入(全国市長会) |
| 10日 | 道路訴訟打ち合わせ | 15日 | 予算・議案説明 |
| 20日 | 公害ストップの会 | 16日 | 都市議長会議議員研修 |
| 23日 | 代表者会議 | 19日 | 議会報編集委員会 |
| 27日 | 新春交流会 | 22日 | 議会運営委員会 |
| 28日 | 井戸端会議講演会(鈴木剛氏) | 24日 | 森てるおと市民の広場(～25日) |
| 29日 | 保谷駅南口訴訟 | 26日 | 議会運営委員会 |